

Creating Shared Value 「共通価値の創造」

当社の企業理念を達成するために、日々、企業活動を行っており、誰のために存在し、その方々にどのような価値を提供するために存在しているか。また、当社が存在することで、顧客のどんな課題を解決しているのか？を常に問うています。

環境にも社会にもステークホルダーの皆様にも、そして当社にも、一方的な提供側と受ける側の関係だけでなく、すべての物や人々が Win-Win の関係で、共に成長し、社会的価値と経済的価値を同時に実現することを目指しております。

当社では、本来の CSR を忘れずに、CSV（共通価値の創造）に取り組むことが新たな市場を創出し、製品やサービスに付加価値を生み出す可能性につながる。そこから企業価値と社会価値の同時の創造で、社会課題や経営課題を解決できたらと願います。そこで、現在、CSV を目標に取り組んでいる事項をご報告いたします。

- ①お客様とともに～商品開発～
- ②安心安全なモノづくり～品質管理～
- ③ステークホルダーとともに～ひとづくり～
- ④環境とともに～地球環境～
- ⑤社会とともに～社会貢献～

①付加価値商品市場に対応した商品開発戦略

今年度より商品開発ユニットは、ハルナマーケティング株式会社からハルナビバレッジ株式会社に移行し、これまで以上にグループ各社の業務を横断して対応できる体制作りを視野に入れております。市場では、単純な安く品質の良いものから、付加価値の高いこだわりのある商品を好まれるようになってきています。これまでの一般的な商品開発作りとは異なった新たな発想をもって、商品開発に取り組む必要があります。

そこで、その市場に対応すべく、新組織として大きく 3 つのセクションに再編しています。



ハルナビバレッジ株式会社
商品開発ユニット
ユニットオフィサー
邑上 豊隆

付加価値商品の創出にはこれまで以上に商品企画部分が重要となります。さらに商品企画内容にこだわれば、商品の中身の開発及び工場での商品化が複雑化してきます。よって各分野を分科して、細かく対応できる組織作りの強化を図っています。



商品開発の流れ

① 新企画開発セクション

商品の企画案を創造するセクションとなります。お客様よりヒアリングを行い、商品に期待される内容とこれまでの経験、市場の動向を組み合わせ、商品企画案を作り出しご提案を行います。企画倒れにならないよう、飲料市場の動向を加味した商品提案を心がけております。

特に昨今は、機能性飲料に興味をもたれるお客様が多くなってきております。多種の機能性原料について探索を行っており、サンプル収集、溶解性、感応とともに知見を増やし、お客様のご相談に対応できる体制を整えております。



② 新商品開発セクション

企画化された商品案を具体的に商品設計し、レシピを作り出すセクションとなります。清涼飲料水ではやはり、味の部分が一番重要となることから、お客様のご希望にある価格帯で最も美味しい商品を作り出すことを心がけております。以下の液種内容について対応が可能でありますので、お気軽にご相談ください。



■商品開発液種一覧：

- ・国産茶系飲料（緑茶、ブレンド茶、玄米茶、麦茶、宇治緑茶、濃い緑茶、国産ウーロン茶）
- ・ウーロン茶（鉄観音、色種、黄金桂、凍頂、東方美人）
- ・ジャスミン茶（特級茶葉、春風、銀豪）
- ・紅茶（無糖紅茶、レモンティ、フレーバーティ、その他果汁入り紅茶、ハーブティ）
- ・外国産茶（マテ茶、ルイボス茶、ブレンド茶、麦茶、豆茶）
- ・スポーツドリンク（ハイポトニック、アイソトニック、熱中症対策用、ミネラル含有）
- ・機能性・エナジー・美容飲料（ビタミン高含有、アミノ酸含有、新規機能性原料）
- ・ニアウォーター（果汁又はエキス入り、天然水仕込み）
- ・果汁・野菜飲料（透明混濁 0～100%果汁・野菜飲料、ネクター飲料、スムージー）
- ・カルピス風味飲料（酸性乳性飲料）
- ・ミネラルウォーター（天然水）
- ・特定保健用飲料、炭酸飲料、豆乳飲料、パウチゼリー飲料、粉末飲料、大型コーヒー

③ 技術開発セクション

付加価値商品の創出において、これまでになかった商品を作り上げていくことがポイントになってきます。技術開発セクションは、新たな製法や新規ジャンル商品の立ち上げを行っていくセクションとなります。付加価値のある新しい商品を提供できるよう努力しております。



②品質管理体制

創業以来、品質管理部門を設け、科学的な検査体制をはじめ、商品の安全性に責任を持つ管理体制を徹底しています。2000年には総合衛生管理製造過程（HACCP）取得に向けた合同委員会を設立し、2006年にはハルナプラントにおいて HACCP 承認を取得、翌年には食品衛生優良施設として群馬県知事賞を受賞。飲料の製造工場としての安全性を確保しています。



■高品質な水

生産拠点であるハルナプラント（高崎市）・タニガワプラント（みなかみ町）では、製品に使用する『水』を、敷地内にある専用井戸から採取し使用。震災以降定期的に、放射能測定（核種のセシウム 137、セシウム 134、ヨウ素 131）を第三者機関において行っておりますが、現在まで問題ありません。

今後も引き続き国や自治体等の放射能に関する情報収集に努めるとともに、使用水の定期的な検査を行い、品質管理の一層の強化に努め、お客様に安心いただける商品をお届けします。



■徹底した衛生管理

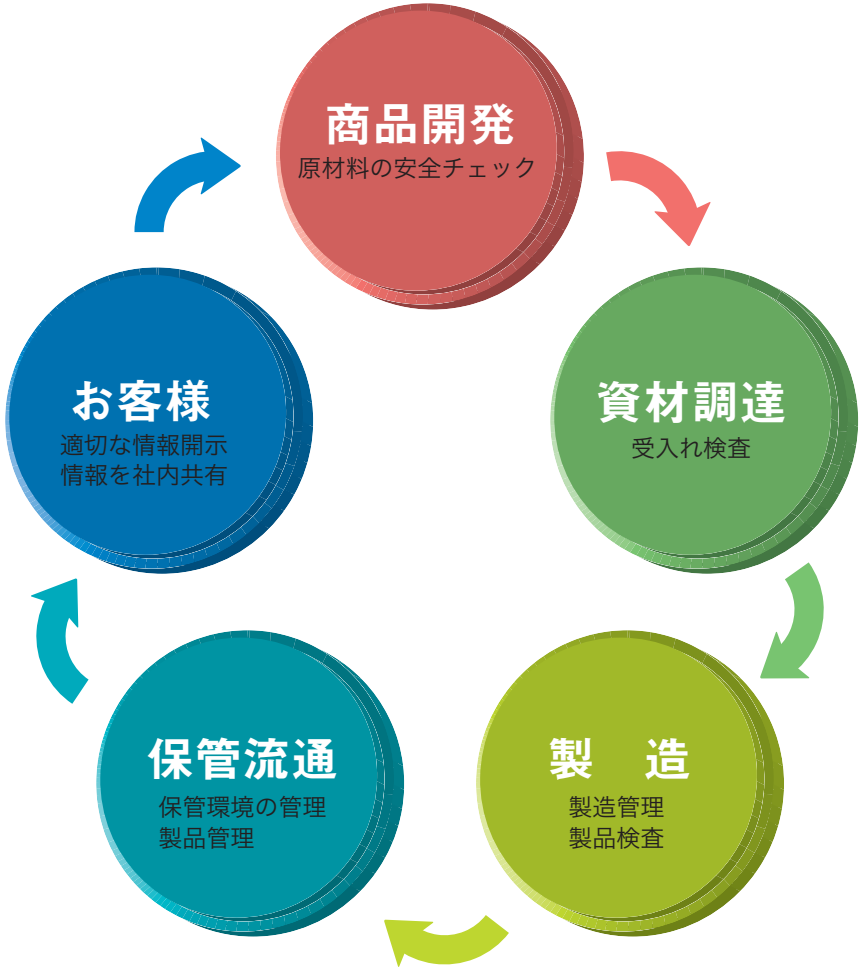
製品の製造過程での製造ラインや使用器具の定期的な洗浄・殺菌はもちろん、工場で働く従業員の健康状態もチェックするなど、すべてにおいて衛生管理を徹底し、常に清潔な状態が保たれています。



■原材料の品質調査

多くの原材料を使用して製造していますが、その入手先は国内だけでなく海外にも及んでいます。本当に安全で安心な原材料のみを利用する仕組みを整備しています。

製品開発から販売までのプロセス



品質管理担当者より管理の徹底について

工場では総合衛生管理製造過程における管理の下、安心、安全な製品を製造しております。品質管理においても、総合衛生管理製造過程を基盤として工場の衛生管理に努めております。

衛生管理と言いましても、その管理範囲は大きく、製品が流れるライン・設備、従業員、防虫管理など多岐にわたる対応が必要です。品質管理ではそれらをもれなく、しっかりと維持管理すべく製造部門など関係部署と細部にわたり協力しながら、日々の管理に取り組んでおります。

また、工場で製造された製品の最終検査も担当しており、品質に問題がない製品であることも確認しております。これからもお客様に安心、安全で心より喜ばれる製品をご提供できるよう、従業員一同で取り組んで参ります。



ハルナファクトリー 株式会社
ハルナプラント 品質・社会環境 Unit
ゼネラルマネージャー（GM）
清水 秀憲

商品情報

HARUNA 株式会社は、ユニークで高品質な飲料・食品を通して元気な笑顔とスタイリッシュなライフスタイルを提案しています。

■輸入商品

スウェーデンやイギリスなどからの天然素材の飲料をはじめ、食品や酒類など各国から輸入し、販売しています。

■自社商品

さまざまな茶系飲料やミネラルウォーター、さらに、シーズン性と付加価値のある飲料をお届けしています。



日本ならではの美味しい飲料をお届けすることはもちろん、それぞれの国の食文化やニーズを見据えた新しい商品の提案を目指し、他社とは差別化した商品を展開しています。

HARUNA Asia Co.,Ltd.

ハルナアジア株式会社

海外事業

高付加価値商品の企画、ハルナグループの技術と研究、商品レシピのノウハウを国外パートナーとともに創り上げていきます。

日本では、少子高齢化・人口減少による市場縮小が進む中、飲料を中心としたビジネス展開を考え、現在、東南アジアのハブとしてタイに、ハルナアジアタイランド株式会社を設立いたしました。経済成長がこれからも高く見込まれる ASEAN・中国・香港へ、積極的な飲料ビジネスを創出することが必要と考えています。

輸出入の観点・飲料製造のノウハウによる技術提携、または将来、現地製造も視野に入れ、ビジネスチャンスを創造し、新規ビジネスを日本国内に限らずチャレンジすることが、今後ハルナグループの成長する 1 つの大きなチャンスと捉えております。

■所在地 United Center Building
Room3004B 323 Silom Road,Bangrak,Bangkok10500 THAILAND
TEL.+(66)2635-5488 FAX.+(66)2635-5487

■法人設立 2013 年 7 月

■役員 代表取締役社長 青木 日出生
取締役 青木 清志
取締役 中澤 幹彦



ウェルネスサイエンス研究所

Wellness Science Research Institute

研究・開発

創業の翌年 1997 年、ハルナビバレッジ研究所として正式に設立いたしました。当初は顧客志向を念頭に「安全で安心な商品」をご提供するため、お客様に喜んでいただける商品の調査、品質の管理から始めました。

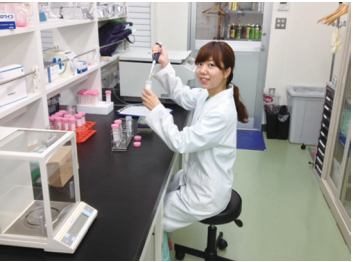
その後、医師や博士、研究者等、専門分野のアドバイザリーを迎え、医学、薬学、農学、物質科学、生命科学、生産技術といった基盤技術研究についても着手いたしました。大学などの社外の研究機関との共同開発により、革新的な商品や技術の開発、生産技術と原料を融合させた機能性素材の開発、機能性食品・健康食品の商品開発における付加価値のある商品の研究開発を行っています。

そして、現在、国内では高齢化社会や、資源・エネルギー等の社会問題にも対応できる商品の研究開発や、グローバル化の広がりに伴うアジアやヨーロッパにおいての、高付加価値商品のための研究開発活動も積極的に行っております。

■所在地 〒370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3
TEL.027-372-1230 (代) FAX.027-372-1255

■法人設立 2007 年 4 月 1 日

■事業内容 機能性素材・原料の研究開発
機能性分析と解析
機能性原料と製品の臨床検査
機能性原料の製品化設計・試作



③人づくり

創業から18年間、顧客満足を経営の理念としてまいりましたハルナグループでは、お客様から信頼され、すべての社員が誇りを持って働ける会社を目指しています。まずは社員の成長が会社の成長となると考えて、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるように、そして、自己の夢を持つ社員やステークホルダーを支援できる環境づくりに努めています。

■豊かな社会のために

中学生の体験学習の推進

毎年、ハルナファクトリーでは、地域の中学生の体験学習のお手伝いをしています。実際の「ものづくり」の現場を実習することで、子どもたちの豊かな人間性や、自ら学び考える力など、生きる力の基盤を創造し、子どもたちの成長を望んでいます。

■新入社員教育

入社後の1ヶ月間は、仕事に対する基本姿勢および仕事の進め方を習得するための教育期間と位置付けています。入社後2週間は、ビジネスの実務基礎を身につける目的で、主に会社の仕組み、財務諸表の読み方、人事諸制度、社員行動規範、必要知識の習得に当てています。

引き続き約2週間の体験学習を行います。品質管理教育、生産管理教育などを通じて「仕事に対する基本姿勢」と「仕事の進め方」を学びます。また、学生から社会人への意識改革を図り、規律や礼儀を身につけます。配属後すぐに職場で生かせるように、名刺交換、電話応対、来客応対などのビジネスマナーを実践学習し、ビジネスにおける礼節を考え、身につけます。

そして、清涼飲料水製造過程における基礎知識から生産設計技術や、ペットボトルの特性と殺菌・法規定について品質向上に加えて、高品質維持への取り組みについて、事故や商品ロスを未然に防ぐ活動の重要性を学びます。

研修後のレポート（2011年10月入社社員より）

ハルナグループについて理解できるプログラムになっており、現場の皆様から直接教えていただき大変わかりやすかったです。飲料の基礎知識やHACCPについてもお話を伺うことができ、勉強になりました。皆様に大変丁寧に接していただき、このような親切な方々と同じ会社で働けることをとても嬉しく思いました。社員の皆様と同じ目標を持ち、会社の役に立てるよう日々努力していきたいと思ひます。

東洋大学の卒論のインタビュー

当社の求める「顧客満足」を提供できる協力会社として、ますます成長していくために、さまざまな育成策を推進しています。2013年には、東洋大学経営学部の学生様からのご希望により、卒業論文作成のため、創業者の青木清志がインタビューを受けました。大学の客員教授を務めたこともある青木は、「卒業論文は就職活動のみに関わるものではなく、その後の人生を構想していくことにも繋がる。学生さんには重要な事であり協力したい」と考えています。



インタビューに答える代表の青木清志



社内研修の様子

■モノづくりのプロを育てるために

リ・エンジニアリング

高い専門性を有する社員は、専門能力に見合う処遇を実現するリ・エンジニアリングセクションで、伝統を継承し続ける存在であるインストラクターとして活躍しています。

私たちを取り巻く社会は、目まぐるしく変化しています。この社会の状況の中で、いかに企業力を磨き、成長を続けるには社員一人ひとりが、経験を積み、知識や技術力、行動力を身につけなければなりません。個人の成長なくして企業の成長はないと思っています。私は今までの人生の過程の中で、自分が培ってきた経験を通して、自分自身が身につけた知識や技術を共有化し、継承していくために教育・指導を行っています。

一人ひとりが学びながら経験し、知識や技術を身につけていけば、成長を実感し、自分を豊かにします。それぞれが財産となり、いろいろな問題や改善に目標意識をしっかりと持ち、チャレンジできる人材になることを私は望んでいます。私たちリ・エンジニアリングの部署でも、今までのような機能別でなく、組織横断的な効率化、高性能化を図るため、目標に向けて全力で取り組んでいます。



ハルナファクトリー株式会社
リ・エンジニアリング
テクニカルインストラクター
中曽根 盛英

■ビジネスキャリアの開拓を総合的にサポート

キャリアネクスト

会社で成長を遂げた熟年層が、意欲と能力のある限り働き続けられるような環境を整え、活力ある企業体質をつくることを目的とし、定年後の再雇用制度を導入しています。熟年層から次世代の社員への技術やノウハウの伝承を図り、60歳以降も働きがいのある仕事に取り組んでもらうために、ビジネスキャリアの開拓を総合的にサポートしています。

また、グループ全体で障がい者雇用に対する理解を深め、雇用を維持し続けるとともに、全社員がやりがいをもって働くことのできる職場環境を整備しています。

青木文庫の設置

経営や経済に関する教育活動の増進、将来を担う人材の育成に貢献すべく、グループ代表の青木清志より約700冊の文庫が寄贈されました。

■社員とともに

ハルナグループでは、社員が健康で安心して働ける職場づくりをめざし、社員のワーク・ライフ・バランスを重視し、さまざまな制度を導入しています。また、安心して仕事と育児を両立できる職場環境をめざした行動計画を策定しています。2012年からは、組織活性化プロジェクトを進め、急速な環境変化に的確に対応し、社員自身が仕事を楽しみ、前向きになり、顧客への歓喜を生み、継続的な利益を生み出すとともに動機付けとして忠誠心を共に養っていきます。

組織活性化プロジェクト

——新しいロイヤリティと継続的な利益創出に向けて——

双方向のロイヤリティの構築を図り、個人の発展と組織の継続的な利益創出に向けて、下記の取り組みを行っております。

ハルナトータルリワード

- | | |
|---|---|
| <p>●金銭的報酬</p> <ul style="list-style-type: none"> 給与体系の見直し・各種手当整理統合 モデル賃金設定 資格リスト作成と手当創設 | <p>●人事考課見直し</p> <p>評価と育成のバリューチェーンを目指して成果連動型＋業績連動型</p> |
| <p>●非金銭的報酬</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設提供（スポーツジムが無料で使用可能） 婦人科検診の実施（希望者全員に無料受診） ワークライフバランスの充実（有給休暇の取得推進、入社時に有給休暇付与） 育児介護休業制度の充実（育児時間外、介護休暇など追加） 健康相談窓口（メンタルヘルスなど） 食事の栄養バランスの管理（弁当の選定） 休憩室の環境改善（快適環境整備予定） | |

人事情報データベース

- 従業員の特長（コンピテンシー）を記録
- 人材育成プログラム・個人のキャリアプランの作成に活用

ビジネススクール

2005年に、製造者養成ハルナビジネススクールとしてスタートし、今年で9年目を迎えるハルナグループのビジネススクールは、階層別・職能別教育と選抜型教育があります。新入社員から管理職まで、各階層の社員に求められる能力やマインドを身につけるためのもので、全社員を対象に実施しています。経営者養成コースは、経営戦略の視点からさまざまな経営判断や意思決定の力を磨くプログラムです。設立以降、大学の教授陣を講師とする経営、経済、マーケティング等の講座から社内講師や社員同士のディスカッション等もあり、修了者はグループの社長候補となります。

2014 年度 ビジネススクール組織体制

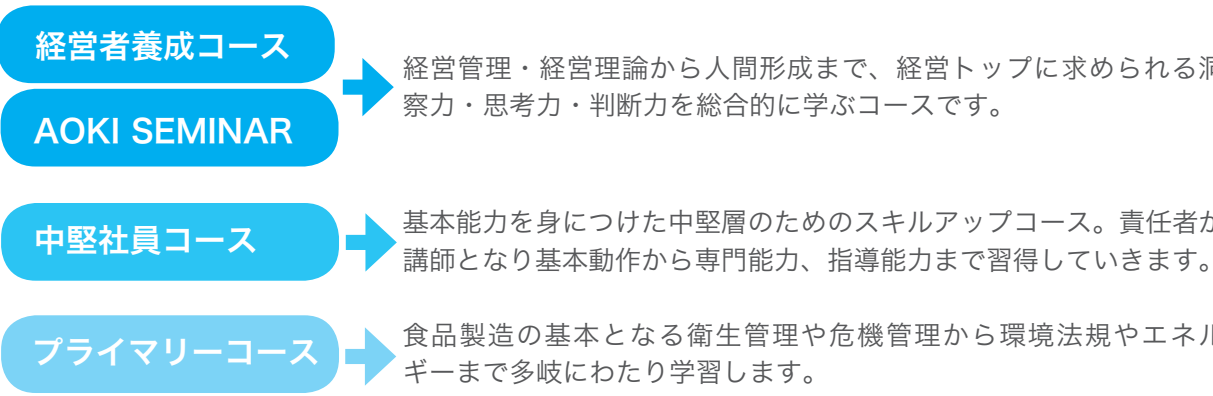
理事長：青木 清志
校長：須齋 嵩
副理事長：菅谷 重信
専務理事：中澤 幹彦



客員教授紹介（講義開催順、役職は当初）

田村 泰彦 様	国立大学法人群馬大学名誉教授、国士舘大学経営学部教授
松島 茂 様	通商産業政策史編纂委員・編纂副主幹、東京理科大学大学院イノベーション研究科教授
岡 俊明 様	サッポロ飲料株式会社元代表取締役社長 国立大学法人群馬大学客員教授、長岡大学教授、アイ&オーマーケティング代表、
須齋 嵩 様	国立大学法人群馬大学教授、国立大学法人宇都宮大学教授
後藤 新 様	群馬県議会議員
財部 誠一 様	経済政策シンクタンク ハーベイロード・ジャパン代表、経済ジャーナリスト
岸井 雄作 様	毎日新聞社東京本社編集局編集委員
杉 伸一郎 様	株式会社イトーヨーカ堂元常務取締役、株式会社ヨークマート元代表取締役社長
津田 晃 様	野村證券株式会社元代表取締役専務、株式会社ジャフコ元代表取締役副社長、 日本ベンチャーキャピタル株式会社 元代表取締役社長
三浦 眞吾 様	NHK コンピューターサービス株式会社元代表取締役社長
杉山 学 様	国立大学法人群馬大学社会情報学部教授
跡田 潔 様	ハルナグループ技術顧問、株式会社ハルナビバレッジ研究所元代表取締役社長
小林 欣司 様	ハルナビバレッジ株式会社元監査役、群馬銀行元支店長、群馬キャピタル株式会社元取締役
野口 恒 様	フリージャーナリスト兼ライター、群馬大学社会情報学部特任講師、情報化白書編集専門委員、 日経事業出版社の編集顧問などを歴任
小出 信介 様	小出公認会計士税理士事務所代表
鈴木 守 様	国立法人群馬大学前学長・医学部長、国立大学法人群馬大学顧問・名誉教授、上武大学前学長
井口 征昭 様	株式会社西友元取締役、株式会社スミス元代表取締役社長、株式会社そごう元取締役、 食品流通研究会会長
梅野 匡俊 様	国立大学法人横浜国立大学大学院国際社会科学研究院成長戦略研究センター客員教授、 青山学院大学理工学部客員研究員
池永 裕 様	公立大学法人前橋工科大学工学部生物工学科元教授
下田祐紀夫 様	公立大学法人前橋工科大学工学部地域連携推進センター特任教授
鹿島 保宏 様	鹿島エレクトロ産業株式会社代表取締役社長
和田 一廣 様	株式会社和田マネジメント代表取締役社長
有田 喜一 様	群栄化学工業株式会社代表取締役社長
青木 清志	ハルナグループ代表（創業者）

講座内容



2014 年度開催予定カリキュラム ※一部

開催月	カテゴリー	テーマ	講 師
4 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR	「企業統治・公開」	青木清志
5 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR 経営者養成コース	「ハルナの現在形から、未来像を考察」 企業リスク論①「企業に求められる危機管理とは」 ・企業を取り巻くリスク ・危機管理の進め方 ・危機管理体制構築のポイント など	青木清志 エグゼクティブパートナーズ
6 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR	「地政学的な国際秩序の基で、今日の世界経済の実態は如何に」	青木清志
7 月	経営者養成コース	企業リスク論②「企業に求められる危機管理とは」 ・企業を取り巻くリスク ・危機管理の進め方 ・危機管理体制構築のポイント など	エグゼクティブパートナーズ
8 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR	「1970 年代で終焉した金融資本主義の残滓がいまだに延命」	青木清志
9 月	経営者養成コース	営業・マーケティング理論①	梅野 先生
10 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR	「経営におわりはない」	青木清志
11 月	経営者養成コース ウインタースクール	営業・マーケティング理論②	梅野 先生 有田 先生・須齋 先生・岡 先生
12 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR	「経済性と地球環境への重視は同軸である」	青木清志
1 月	経営者養成コース	商品開発論①	池永 先生
2 月	20 周年記念・AOKI SEMINAR	「経営者の精神高揚と自己犠牲」	青木清志
3 月	経営者養成コース	商品開発論②	池永 先生

ビジネススクール 榛名山麓研修所

ハルナグループではビジネススクール開講より9年間、さまざまな研修会やセミナーを各地で実施してきました。2014年6月には、より教育の効率化、徹底を図るため、榛名山麓研修所を開設しました。社員が集中して資質能力の向上を図ることができるよう、教育・訓練に集中するのはもちろん、講師や他受講生と、自然に囲まれた当社の創業の地である榛名山の麓で、共に時間を共有することで信頼や共感を育む、安らぎの場所ともなることを目的としています。



榛名山麓研修所にて、研修の様子

④環境への取り組みについて

現在、地球上では気候変動などの環境問題や公害問題が深刻化しています。ハルナグループでは、「環境」を経営上の重点項目の一つに位置づけ、より環境負荷の少ないエネルギーへの転換や省エネルギー設備の導入、廃棄物排出量の削減を推進していくとともに、社会貢献活動を含めた環境経営による『人と生態系との共存』を基本理念とする「環境方針」の下、社員一丸となって『その実践に向けての挑戦』に取り組んでおります。



ハルナファクトリー株式会社
取締役 兼 常務執行役員

古市 直也

■環境への取り組みの考え方

- ① 地球環境にやさしい企業であるために、エネルギー対策を推進し地球温暖化防止対策に努めます。
- ② 資源・エネルギー使用の無駄をなくし、効率よく資源・エネルギーを使用するための改善を推進します。
- ③ ハルナグループの環境に対する基本理念を常に意識し、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

省エネのための蒸気の有効利用

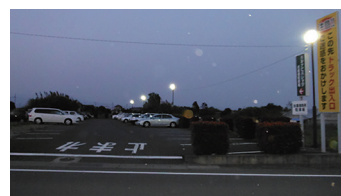
地球温暖化の要因の一つである CO2 の排出量削減対策として、ボイラ燃料で使用していた A 重油から CO2 排出量の少ない都市ガスへの切り換えをハルナプラントで 2012 年 8 月に実施しました。あわせて今まで分散していたボイラ設備の集約化も実施しました。2013 年度は、ハルナプラントとタニガワプラントで蒸気効率を高めるためにバルブや配管等に保温ジャケットを取り付ける省エネ対策を実施しています。



蒸気バルブ等の保温化対策



LED 照明設置状況（工場内）



LED 照明設置状況（駐車場）

工場内の LED 化と駐車場の LED 化

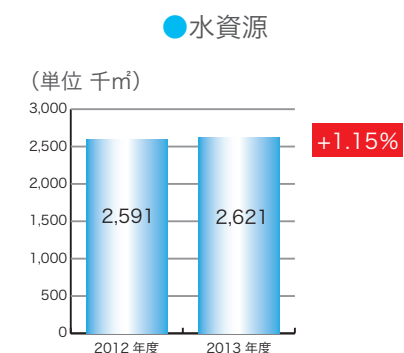
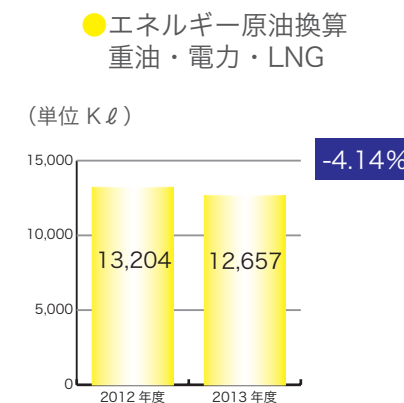
電力使用量削減対策として 2013 年度に工場内の照明を水銀灯から電力使用量が少ない LED 照明に変更いたしました（ハルナプラント、タニガワプラント）。また、ハルナプラントでは駐車場照明も LED 照明に変更いたしました。LED 照明への変更により電力使用量を削減しております。

2011 年度よりエネルギー政策を重要課題と位置づけ、「エネルギー戦略会議」として将来に向けたエネルギー政策について、社員一人ひとりのアイディアも含め検討・協議し、エネルギー対策を進めています。

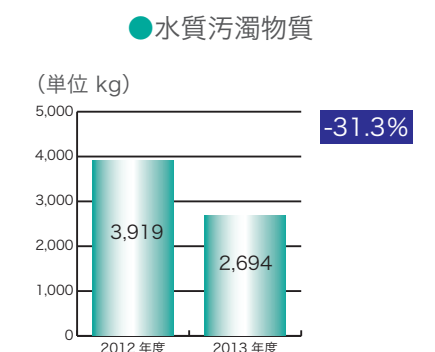
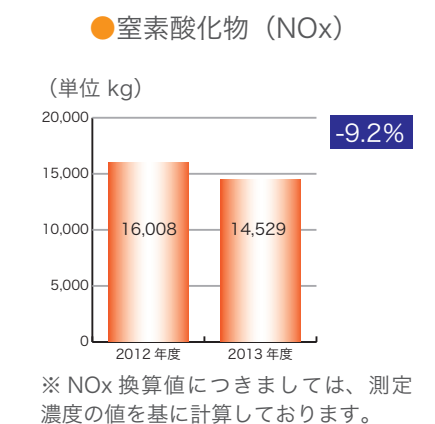
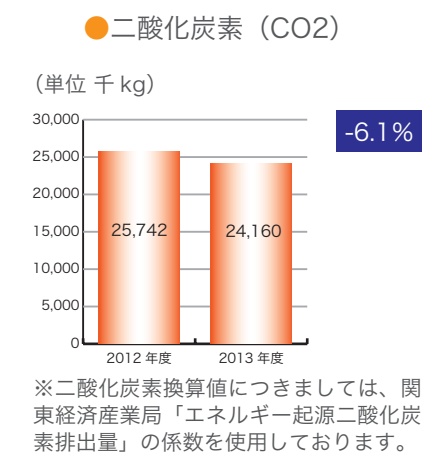
環境会計

2013 年度は省エネ活動の結果、2012 年度に比べてエネルギー（都市ガス、LNG、電力の合計）の使用量が減少しております。水使用量につきましては、若干の増加となりました。引き続きエネルギー使用量や水使用量の削減に向けて、日々の省エネ活動等を継続的に推進し環境負荷の低減に努めてまいります。

インプット



アウトプット

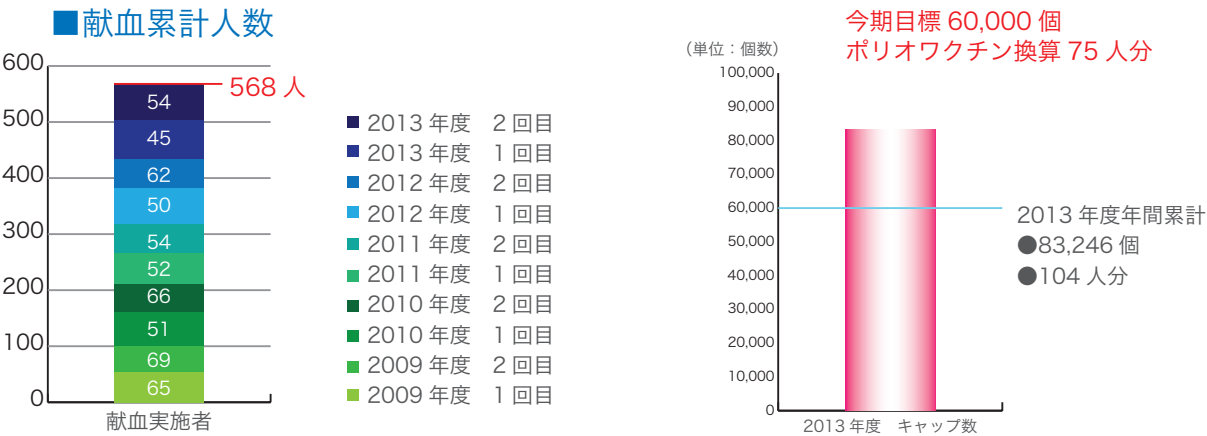


製造

⑤社会貢献活動

献血活動

2009 年 5 月から群馬県赤十字血液センター様ご協力のもと、献血車による献血活動を開始し 2013 年度までの累計で 568 人の献血を実施いたしました。
今後も定期的に献血活動を実施していきます。



エコキャップ活動

2009 年 5 月から、ペットボトルのキャップを回収し再資源化することで得られた売却益の一部を、開発途上国の子どもたちへのポリオワクチン代として寄付するエコキャップ活動に参加しています。2013 年度までの累計、361,110 個(ポリオワクチン 451 人分)のキャップをお渡ししています(キャップ 800 個でポリオワクチン 1 人分)。



健康で豊かな社会の実現に貢献し、社会から信頼され感動を共有することをめざして、一人ひとりが地域の皆様との協力の下、活動を行っています。

用水路清掃（ハルナファクトリー活動内容）

地域環境保護の一環として工場横にある用水路の清掃活動を行っています。



地域清掃（ハルナファクトリー活動内容）

地域環境保護の一環として清掃活動を行っています。



群馬 GS 活動参加（ハルナファクトリー活動内容）

群馬県主催の春の環境美化月間「環境美化運動・清掃活動」に参加しています（みなかみ町政所地内利根川河川敷）。

